

外務省 アジア地域協力室長
兼 対日理解促進交流室長

深堀 裕賢 氏 (高校31期)

【学歴】

1983年 早稲田大学経済学科卒
1984年 豪州メルボルン大学留学
1999年 タイ王国チュラロンコン大学修士号(環境科学)
2003年 米国メリーランド州立大学博士課程単位取得終了
2007年 ベトナム国家大学博士号(環境経済学)

【職歴】

1983年 外務省入省(英語専門職)
以後、数回の外務本省勤務に加え、オーストラリア、
ミャンマー、イギリス、タイ、アメリカ(DC)、ベトナム、
インド、アメリカ(アトランタ)の各在外公館に勤務。
その他、2つの国際機関、地方自治体にも出向。



2017年11月、政府専用機内にて

「高校時代」。なんとも甘美な響きです。57歳の現在、過去を振り返ると、一番輝いて見えるのが立川高校時代です。まあ、生物として最も生命力の強い時期だったからという面はありますが、ともかくもその後の人生の基礎が作られた重要な時期でありました。

といいつつも、高校時代は不安定でフラストレーションの塊でした。「どう生きるべきか」について迷い続けたものの方向性が定まらず、投げやりな時間を浪費するだけでした。

それでも、今思い返せば高校生活はとても楽しく有意義だったように感じられます。何よりも思い出深いのが、民音の部長として学内コンサートの実施に携わり、自らバンド演奏やソロ演奏をしたことです。下手なりに真剣だった自分がなんとも哀れながら懐かしく思い返されます。それから体育祭や文化祭や合唱祭で、今も続く多くの友人達と色々活動したことも大切な思い出です。しかし、高校時間の大半であった授業に思い出はありません。いろいろ学ぶことは好きでも学校の勉強は苦手で大嫌いでしたので。そして、運良く入れた大学でも同じような悩める自堕落な生活が続きました。

さて、そんな私が、「2年間無料で国費留学できる」というものすごくいい加減な就職動機で外務省に入省した結果、冒頭記述のとおり海外8カ所+国内地方1カ所勤務(計24年)という多様かつ環境が頻繁に激変する生活を送ることになります。海外勤務の際は、各国政府関係者と各種交渉を行い情報収集する毎日でしたが、加えて多くの事件(例えば、88年ミャンマー動乱、IRA各種テロ、98年カンボジア総選挙・軍事衝突、01年アメリカ同時多発テロ、03年SARS発生・死者多発、04年スマトラ沖大地震等)に現地で直面し対応しました。大変な苦労や心痛を経験しましたが仕事としてはなかなかchallengingであり、どうやら外務省勤務は体質にあっていたようです。なお、授業嫌いで塾や予備校などとも生涯無縁で宿題さえ殆どやらず、留年ぎりぎりまで毎年自主ブランクした高校生だったのが、成り行きで冒頭記述のとおり大学5校に在籍する人生になりました。高校時代には全く予想できなかった展開です。

このように、高校・大学時代をいい加減に暮らしていたにもかかわらず、その後の人生は不思議と充実しています。収入は多くなく地位もありませんが、自分なりのニッチを見つけられたということなのでしょう。

ということで、立高生の皆様、考え悩んで色々なことを試してみましょう。そうしているうちに、いずれ自分なりの居場所は見つかるものだと思います。

結語:「**学校の勉強は嫌いでも、学ぶことは嫌いにならないで下さい**」(AKB風)